

現代教育実践文庫

全30巻 + 別巻2

活用のおてびき(総索引)

太郎次郎社

目次(巻名一覧)

活用案内	2
内容索引	6
新しい教育のイメージ	6
教師の仕事とは、授業とは	6
授業づくりの急所	7
ゆたかな日本語の授業	8
ことば遊びの授業	8
漢字あそび、ひらがな遊びの授業	8
新しい読みの授業	9
算数・数学の授業づくりのコツ	9
算数のつまずき、その診断と治療の授業	10
新しい社会科・理科の授業	10
子どもの心をひらく表現の授業	11
美術の授業をつくる	12
「性」と「生」の授業	12
いのち、食べもの、公言の授業	13
いきいきした学校行事と学級づくり	13
障害児とともに学ぶ	14
障害を超えて生きる	15
管理主義とはなにか	15
管理主義を超えるために	16
登校拒否を超えるには/生活点検とはなにか	17
荒れる子どもたちと自立への道	17
「いじめ」その原因と対応	18
子育て・育て・親育ち	19
地域をつくり変える教育実践	19
家庭教育・幼児教育の実践	20
親と教師が手を結ぶ教育実践	21
[写真集]ヒトが人間になる	22
学ぶこと、生きること	22
科学史の流れに学ぶ	22
科学・文学・教育の古典から学ぶ	23
付巻・善財童子ものがたり(上)	23
付巻・善財童子ものがたり(下)	23
現代教育実践文庫全38巻の案内	25
反響(「現代教育実践文庫」—新聞から)	26
反響(「ひと」—新聞から)	28
「ひと」の案内	31

活用案内

いま、

[現代教育実践文庫]の特徴

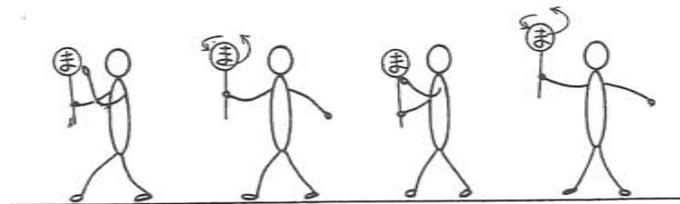
①—この全30巻は、新しく生まれた最新の授業を中心に全体を構成した。現代の子どもたちの心をゆり動かす授業実践の集大成である。

②—歌いながら踊りながら学ぶ文字あそび・漢字あそび、子どもの感性を引きだす踊り・合唱・劇などの表現の授業、〈性・いのち・公害・戦争〉などの現代の課題を追求する授業を収録した。

③—解決を迫られるいじめ・登校拒否・校内暴力などの突出した問題を中心に、それをどう克服するか、子どもたちの自立の道を明らかにしている。

④—全教科にわたって授業づくりの急所がとりあげられている。授業のコツが手に入れられる。いつでも、どこの教室でも、これを実践できる。

⑤—現代の苦難を教育としてどう受けとめるのか。管理主義をどう超えるか、障害児とともに生きる、家庭の教育や子育ての実践などが収録されている。



あなたの悩みに答える実践の数かず——活用案内

●——読者のかたから寄せられた悩みや問いのなかから14例をとりあげて、それに答えるおもしろな原稿をあげました。「」はタイトル名、文中の「」は巻名です。

* * *

●問い——3年生の担任ですが、12を102と書いてしまう子がいます。1年生のときから欠席の多い子なのですが、いまさら1年生の教科書にもどるわけにもいかず、困っています。

▶教科書の復習をするよりもゲームをやったほうが、遅れをとりもどすのには最適です。十進法と位取りの仕組みを理解させるゲームは、2位数の数字を書いた正十二面体のサイコロとタイルがあればかんたんにできます。それは遅れている子の指導だけでなく、他の子にとっても、算数の急所をしっかりつかませることになりま。どの子も、「1年生のことなんて」とバカにせず、キャッキョッと喜んでゲームに興じます（『2位数と、くりあがり・くりさがりの計算』）。

◆このようなゲームはたくさんあります。つまずきの急所を押さえる診断テストとゲームがセットになった実践が『算数のつまずき、その診断と治療の授業』の巻です。

●問い——ふつうの割り算は、割れば答えが減るのに、 $1 \div \frac{1}{3}$ や $2 \div 0.5$ などの分数や小数の割り算では、答えが増えてしまうのです。子どもたちの疑問にどう答えたらよいでしょう。

▶「折り紙」を使って考えると、子どもたちも納得してくれるにちがいません。自分が何を求めようとするのか視覚的にはっきりとらえられますし、手作業をするうちに割り算の意味

がイメージにくっきり焼きつきます。分数の割り算は、なぜ、分母と分子を引っくりかえてかけるのかもわかります。折り紙を使った「分数のわり算」（松井幹夫『算数・数学の授業づくりのコツ』）をご覧ください。

◆分数については「色ぬりタイルで分数を教える」（『算数・数学の授業づくりのコツ』）のほか、『算数のつまずき、その診断と治療の授業』のなかに小数と分数の章があります。

●問い——高学年になるのに漢字が書けない子が多くて困っています。毎朝、小テストをやったり宿題を出したりしているのですが、さっぱり効果があがりません。何かいい方法は……。

▶まず、漢字の問題をやってみてください。「合、寺、由、相」に、共通な漢字をつけ加えると、また新しい漢字になります。それはなんとという漢字でしょうか。ヒント、「かんむり」の部分です。いかがですか？ こんなクイズだったら、子どもたちはワクワクして学びはじめるでしょう。では、「商」に対応する「店、人、登、業、社」のうち、仲間はずれになるものはなんでしょう？ こんな宿題だったら、やるなと言ってもやるでしょう。

◆『漢字あそび、ひらがな遊びの授業』には、こんな遊びがいっぱいつまっています。

●問い——「ものをよく見て書きなさい」とか、「見たものをありのままに書きなさい」とか指導しても、子どもたちはなかなか書いてくれません。どうしたら作文ずきになれるでしょうか。

▶こんな試みをしたらどうでしょう。わざと話しことばで書かせるのです。自分でしゃべるときのことを考えながら、アーとかエーとかも入

れて書く……。書くことに悩んでいる子に「先生に話すように書いてごらん」というと気楽に書けるようになります。逆に、見たままを正確にという注文は、ことば以前のイメージの流れを妨げてしまいがちです。そして、あとで、その同じ内容を自分でしゃべって録音し、文字起こして比べると、もっとおもしろいかもしれません。

◆「話しことば、書きことば」「文章を書くことの起点をさぐる」（大岡信『ゆたかな日本語の授業』）、「子どもが全身で文章を書いたとき」（伊東信夫『漢字あそび、ひらがな遊びの授業』）、「絵本を読んで、お話をつくる」（横森さち子『漢字あそび、ひらがな遊びの授業』）。

●問い——いまの子どもたちは声を出して読むことが苦手です。読めても、なにが書いてあるのか自分なりのイメージが描けないようです。どうも日本語ざらいが育っているようですが。

▶声をだして読むことをためらっている子に、「みんなにむかって語りかけるように読んでごらん、まちがってもいいから」とアドバイスしたらどうでしょうか。字をまちがわないことに神経を集中させているのですから、そこを解放する。声を出すことは生理的にも気分のいいものですし、声を出すことによってイメージが喚起されてくるはず。同じように、辞書的な意味を覚えることに神経を集中させている子に、ことばをことばとして味わう「ことば遊び」をやって楽しんでしまったほうが、自分でイメージを描く力がついてくるのでは……。

◆「ことばトリズム」「ことばは生きものである」「話しことばと書きことば」「イメージと創造力」（大岡信『ゆたかな日本語の授業』）、「こ

新しい授業のイメージ、新しい課題、

とばとイメージ」(竹内敏晴)、「からだ・ことば・イメージ」(鳥山敏子)、「朗読が読みとりを深める」(伊東信夫)が『新しい読みの授業』に収録。

●問い——低学年の社会科って、「お母さんが洗濯するのは、朝、昼、夜のどれでしょう」なんてことしか教えないのかしら？もっと別の視点から(家族について)教えられないでしょうか。

▶こんな宿題はどうでしょう。平日が休みの日、朝いちばん早く起きる人に起こしてもらって、朝のうちにその人がすることを一部始終、見て歩き、順を追っていねいに作文にします。そして、こんどは夕方、食事のときから寝るまでを、家族の会話も入れて作文にする。夜おそく帰ってくるお父さん。つぎは、「お父さんはなにをしているのかな？」と聞いてあげたらどうでしょう。わが家の経済も考えながら「わたしのかぞく」をとらえていく実践は、きっと子どもたちの家族の見方を変えていくことになるでしょう。(「おおかさんの目は、見えないことはないよ」松本美津江『新しい社会科、理科の授業』)。

◆「地域の人に生き方を学ぶ」(森山道子)、「フロンシキの授業」(武田伝)(ともに『新しい社会科・理科の授業』)など、地域の暮らしとのかわりを学ぶ実践もあります。

●問い——6年生になったら、急に女の子と男の子とのあいだがコソコソしだして、女の子の更衣室をのぞく子どももでてきました。子どもの好奇心に性教育としてどう答えたらよいでしょうか。

▶夏の終わり、海辺の秘密の場所で次郎は妖精のような少女に出会った。つぎの日、その少女

は二つも年をとったように……。今江祥智の「女の子」という作品をととして、異性を意識しだした成長期の多感な少女・少年の心に迫る実践(「メルヘンで“性”を考える」木幡寛)。「キスの味ってどんな味？」「Cをすると、ベニスから白いものが出るっていうけど、それは何？」などという子どもの赤裸々な疑問に答えながら、私の「いのち。のはじまりにさかのぼっていく実践(「自分はどこから生まれたの」奥地圭子)。これらは子どもの好奇心に正面から答えることになるでしょう。

◆「授業、思春期へのメッセージ」(望月正弘)、「性について」(根岸悦子)、「だれも書かなかったオチンチンの話」(はらあつし)など、いずれも『性。と“生”の授業』に収録。

●問い——クラスで飼っていた2匹のウサギを、子どもたちがエサをやり忘れて餓死させてしまいました。「いのち。に鈍感になっている子どもたちに、“いのち。のとうとさを伝えたいのですが。

▶きょうの給食にでた食べものの材料を書きだすことから始めたらどうでしょう。パンの材料からサラダ、牛乳、くしかつ、ソースにいたるまで、みんな「いのち。をもっていたことに、子どもたちはびっくりすることでしょう。そこから授業は発展していきます。人の体重1kgにつきスズキ10kgを食べ、スズキは100kgの小魚を食べ、小魚は1000kgのプランクトンを食べる……。自然界はまわりまわっていのちを支えていること。さらに、「私」といういのちが生まれるには父と母がいて、その父と母が生まれるにはそれぞれに父と母がいること。「いのち。をテーマにした実践はさまざまな可能性を秘めています。(「“いのち。のとう

とさを教える」奥地圭子)。

◆「おしっこといのちの授業」奥地圭子、「死。の授業」木幡寛、「アフリカはなぜ飢えるのか」江藤邦彦、「ヒトとブタ」鳥山敏子、いずれも『いのち、食べもの、公害の授業』所収。

●問い——子どもはコーラや甘いお菓子、カップめんが大好きです。食事しらべをしたら、給食以外はインスタントものばかり食べている子もいました。食べるな、とも言えないし……。

▶海水でトウフをつくりませんか。子どもたちばかりでなく、私たち大人だって何を食べさせられているかわかりません。自然の材料を使って、自分たちの手でトウフをつくって味わうことによって、いま、私たちが食べている食品に対する視点のはっきりしてくることでしょう。おいしいですよ。(「海水でトウフをつくる」沖繩・恩納「ひとの会」)。

◆このほか、合成洗剤や添加物の恐ろしさを考える「石けんづくりの授業」「食品添加物の授業」(大深佳夫)、豚肉はどのようにして私たちの食卓にやってくるのかを追いかけた「飼育から屠殺まで」(鳥山敏子)、食べ物の現状をレポートした「あやしい探検隊と大フライパン」(「檻のなかの魚たち」(宮島郁子)などが『いのち、食べもの、公害の授業』に収録。

●問い——子どもたちはジャズダンスや踊りがだいすきです。ところが、私自身は体育が苦手ですし、踊りも踊ったことがありません。どうしたら、そんな授業がやれるようになれるですか。

▶体育が不得手で、踊りのこともよく知らなかった若い先生がソーラン節をやろうと決意した

新しい授業の方法がいっぱい!

●活用案内

のは「ひと」の実践を見てからです。自分のできないことは、子どもといっしょに考え、ときには子どもから学ぼう——という精神でとりくんだ結果、子どもも先生も、運動会のためにやるのではなく、自分たちの踊りをつくらうという気持ちに変わる。そして、不得意中の不得意の鉄棒までできるようになってしまった……。

◆「ソーラン節をやったら鉄棒ができるようになった」(白井和江)のほか、「子どもの心をひらく表現の授業」(依田節夫)、「歩くことから始めてじゃんから節をおどる」(ならきよとし)などが『子どもの心をひらく表現の授業』に収録。

●問い——私自身も絵が描けないし、子どもたちに絵の描き方をどう教えたらよいかわかりません。犬が犬に見えるように描けるのには? また混色や遠近や構図などの教え方は?

▶だれもがまねできる方法があります。たとえば、混色だったら、三原色と白しか使わないでたくさん色をつくってみるという方法はどうか。子どもたちは何十種類もの色をつくりだしますよ(『無限大への挑戦』松本キミ子『子どもの心をひらく表現の授業』)。また、遠近法をまきを使って教える実践があります。立っているまきと寝ているまき。画面を分割するとき、まずガラス板に写しとってしまうのです(『レンガとまきの描写』久保島信保『美術の授業をつくる』)。

◆『美術の授業をつくる』には、具体的な方法が低学年から中学まで16の実践が収められています。他に「もやしをかく」「子どもたちの美術実験室」「自然と生活を描く」などが『子どもの心をひらく表現の授業』の巻に。

●問い——B君のお母さんからA子がのけものにされ、いじめられているという話を聞かされるまで、私はその事実まったく気づきませんでした。おとなしいクラスなのに、どうしてこんなことに……。

▶「愛理をいびる会」という会ができた。生意気だから口をきかない。口をきいた子も仲間はずれにするという。クラスの“実力者、伊野君の「彼女は転校生のくせにえぼる」ということばから、“口なしげんか。が広がっていく。口をきく子はたった3人になってしまった。そのとき、クラスの子どもたちはどうして解決していったのか……。その“くちなしの花。を子どもたちの力でみごとに開花させ、実らせ、口を開かせた記録(『くちなしの実が開いた』水野直子)は、明るい希望を与えてくれることでしよう。

◆いじめ事件をいじめられっ子の親の立場で書いた「なぜリンチ事件が起こったのか」(国司郁子)、「なぜ息子はいじめられつづけたのか」(波田野美子)、いじめを扱ったNHK番組への反響から、原因と解決の糸口をさぐったレポートなどがある(『「いじめ」その原因と対応』)。

●問い——こんど担任した組に、半年も登校拒否をしている子がいます。前担任から「変わり者で怠け心が強い」のだから、ほっとけ」と言われましたが、どうも気になつてしかたありません。

▶登校拒否をして拒食症まで引きおこしていた子が、目のまがパッとひらけ、食欲まで出てきたのは、「無理して学校に行かなくてもいいんだよ」という一言だった。登校拒否を体験した子は、学校に行こうとすればするほど圧迫され、追いつめられた体験を語っている。怠け心

や病気のために学校へ行けないのではないのだ。そのことをはっきりさせたとき、登校拒否の子と心をかよわせることができる(座談会「なぜ学校に行かなければいけないの?」)。

◆『登校拒否を超えるには』の巻の、登校拒否児とかかわってきた医師やカウンセラーからの提言、登校拒否をしたことで自分を発見していく若者の記録、親と子、教師と生徒がともに超えていく記録を読むと、登校拒否の生徒にどのように対応すればいいのかが具体的にわかります。

●問い——まえの担任がきびしい先生だったせいか、お行儀がよすぎて、いちいち「失礼します」なんてあいさつする。休み時間も遊ばず、放課後もさっと帰ってしまう。なんとかしたいのだが。

▶静岡の池ヶ谷巨枝先生のクラスも同じような状況だったそうです。そこで先生は「教室はまちがうところ。まちがうから、いい勉強ができるんだ」と語る。目を丸くする子どもたち。放課後、帰ろうとする子には、「宿題、教えてあげる」と誘う。やがて放課後の教室には宿題だけでなく、遊び専門で残る子どもでいっぱいになった。そうなる、ゲームやトランプなどの遊び道具や、メダカや金魚、はては食用ガエルまでが教室に……。きつと問題は起きるけど、そんな台風も子どもとともにくぐりぬければ、また楽しいと池ヶ谷先生は思うのだった(「みんな、もう帰るの?」)。

◆教室を子どものものにする実践はたくさんある(『いきいきした学校行事と学級づくり』)。また、教室で遊ぶ小道具はダンボールでいくらでもつくれる(『遊具づくり』松延ひろし『子どもの心をひらく表現の授業』)。

内容索引 (総目次)

●—386人の執筆者、
786の執筆項目が
現代の教育問題の
解決にせまる



新しい教育のイメージ

I—教育とはなにか、知とはなにか

- 知とはなにか、学ぶとはなにか
教育再生の道すじを求めて 大田堯
もうすこしの自立を
わたしの「水俣病」の授業をめぐる 日高六郎
写真林竹二「人間について」の授業
写真小野成視・文春日辰夫
「教育亡国」を生みだしたものは何か
林竹二著「教育亡国」に学ぶ 遠藤豊
林竹二先生を悼む
「授業とはなにか」を学ぶ 遠藤豊

II—学ぶとはなにか

- 学ぶということ 私立「自由の森学園」の入学
試験での講話 遠藤豊
「学ぶということ」をきいて 受験生の感想文
野田昌世+小迫倫子+田中香+武田英明
+福田香+大森智保+高橋肯子
夜間中学、ただいま授業中
ここに教育がある 松崎運之助
待ちどおしい星空の学校 ザ・夜間中学のギャ

- ルとオゾン・オバンたち 松崎運之助
自分らしさを自由にのぼせる学校
芦屋児童の村小学校の子どもたち 宇佐美承
「覚える」から「なぜ」の教育へ
イギリスの学校教育 黒岩徹

III—新しい学校のイメージ

- 座談会新しい学校のイメージ
遠藤豊+大田堯+芳賀直義+松井幹夫
新しい学校の数学の授業をイメージする
松井幹夫
写真「自由の森学園」校舎が完成
写真大木茂・文杉浦武晴
写真自由の森学園の入学試験 大木茂
自由の森学園では、入学試験をどう行なったか
松井幹夫

- 座談会なぜ、明星学園をやめたか
教育とは何か、教師とは何かを求めて(上)
遠藤豊+松井幹夫+無着成恭+遠藤豊吉
座談会なぜ、明星学園をやめたか
教育とは何かを求めて(下)
遠藤豊+松井幹夫+無着成恭+遠藤豊吉

IV—教育の源流をさぐる

- 対談先生と生徒、師匠と弟子
野村四郎×無着成恭

- 対談教育のすばらしさとおそろしさ 「おとな
になる旅」をめぐる 澤地久枝×遠藤豊吉
対談「ずっこけ」のすすめ 山中恒×森毅
解説/学校って、なんだろう 森毅

教師の仕事とは、授業とは

I—子どものおもしろさを 発見するとき

- 子どものおもしろさの発見 伊東信夫
はくのコペルニクスの転回 吉成修
老化教師って…? 石川充夫
授業で私も、子どもも生きかえった 石野陽江
教師は子どもから生命をもらって生きている
芳賀和彦
「しあわせの砂」が学びの扉をひらく
子どもと教師が自信をもつとき 原田智恵子
のりさんが大好きになったのは
子どもと教師が自信をもつとき 大西幸子
先生、いのちかけたっていいよ
子どもと教師が自信をもつとき 平林浩
手だすけ無用のシャボン玉づくり
子どもと教師が自信をもつとき 長谷川立子

II—若い先生が教育を発見するとき

- 子どもがかわいくなるまでつきあえ
 恩師・宮崎先生へ 鈴木雅之
 そのままの君がいい! 桑島啓介
 管理主義がほくを鍛える
 教科書 VS ひらがな教室 石川誠
 子どもの助人になれる教師に
 「教師らしく」って、どういうこと? 山際育子
 子どもによりそって生きる自信が 宇津富美代
 学級通信を出すことで 遠藤勝
 二十代先生、しっかり!
 若い女先生から若い女先生へ 川島良子

III—教師として人間として

- ほくの母は女教師だった
 ひととしての自立を学ぶ 菅龍一
 がんばります。子育て最中 木村敏子
 苦しみも喜びにかえて
 私をつくった女教師38年の節目 斉藤君子
 臨時教員は消耗品か 君原英子
 追いだされ教師の記
 すずめの学校からめだかの学校へ 鈴木康三
 子どもや親たちに支えられて 庄司好紀
 障害児を受け持って 伏見邦子
 子どもとともにいきる魅力を知って
 優等生教師から落ちこぼれて 香川節子

IV—教師の仕事とは

- 教師のなかにことばは生きているか 遠藤豊吉
 わたしの教師開眼(1) 芳賀直義
 わたしの教師開眼(2) 校長としてのわたしに 芳賀直義
 ひそむ管理主義を超えるために 芳賀直義
 教育における「待つ」こと 野名龍二

いのちの力を存分に伸ばすとき、創造の実り
 あり「女先生のシンフォニー」をよんで 山代巴

V—教育を発見するための本

- 学歴信仰の根を見つめて
 遠山啓著「競争原理を超えて」 市川千枝
 熱い志に打たれて「音龍」著『生徒とともに能
 力主義をこえて』 江藤総江
 戦中派教師と戦無派教師との出会いの地点
 遠藤豊吉著「年若き友へ」 石井孝子
 権力を持つことは両刃の剣 榊忠男・高柳直正
 著『お願い内申書やめて』 小尾芳枝
 昭和一ケタ生まれがすすめる3冊 伊藤ひろみ
 現実のなまなましさを子どもたちに伝えよう
 宮沢望
 解説/教師としての「学び」を発見するとき
 芳賀直義

授業づくりの急所

I—いま、授業をつくるとは

- 授業で子どものアバガがエクボに見えるとき
 芳賀直義
 この教育状況のもとで、授業をつくるとは
 奥地圭子

II—教え・学ぶ力を手にするには

- 教え・学ぶ力を手にする法 菊池淨
 のんびりと楽しみながら 教材を自分で選び、
 授業を子どもにつくる 菊池淨
 授業でひとりひとりの出番をつくる 序列づ
 けの授業なんか、もうできない 田中弘一

教室を「びっくり箱」に
 教師にとっての表現とは 村田栄一
 ゆとりのある授業 文部省推薦! 森毅

III—明日の授業をつくるために

- 座談会明日の授業をつくる座標を求めて
 戦後教育の流れを検討する
 伊東信夫+奥地圭子+木幡寛+芳賀直義
 +山住正己+編集部
 これで子どもと楽しくやれる 戦後教育から
 なにを学び、再創造するか:算数 石川充夫
 学ぶことから創ることへ 戦後教育からなにを
 学び、再創造するか:国語 伊東信夫
 歴史との対話、物との対話を求めて 戦後教
 育からなにを学び、再創造するか:社会科
 里見実
 ぼくら「教育芸能集団」 授業を創るなかで戦
 後教育を肯定的に否定する 木幡寛

IV—学力とはなにかを考える

- ほんとうの学力とはなにか
 すべての子どもに学ぶよろこびを 伊藤隆二
 受験学力って、なんだ 則松直樹
 カンニングのすすめ カンニング・ペーパー必
 携のテストをやってみたら 吉田一
 都立高校、数学の入試問題について 山田正直
 「勉強」という日本語の意味は? 平林浩
 算数・数学の学力問題によせて「公文式とは
 なにか」という母親からの質問に答える 宮本敏雄

V—授業をつくるための本

- 遠山啓著作集「量とはなにかI」 木幡寛
 「タイルの算数の教え方」 伊東信夫
 「低学年の美術教育」 井手則雄

内容索引

【小学生の漢字はかせ】 岡田進
 解説／みかんの皮をむきながら 菊池浄

ゆたかな日本語の授業

I—日本語のゆたかな表現を求めて① ことばとはなにか

ことばと表現 大岡信
 ことばとリズム 大岡信
 ことば知識ではなく、体験である 大岡信
 ことばとことばが響きあう 大岡信

II—日本語のゆたかな表現を求めて② ことばの教育の基礎とは

ことばは生きものである 大岡信
 ことばが人間関係をつくる 大岡信
 ことば遊びと、ことばの教育 大岡信
 ことばが誕生するとき 大岡信

III—日本語のゆたかな表現を求めて③ ことば・イメージ・創造

イメージと創造力
 シュールレアリスムをめぐって 大岡信
 文章を書くことの起点をさぐる 大岡信
 話しことばと書きことば 大岡信

IV—「にほんご」で授業を創る

写真「はくのいまいるところ」 川島浩
 “なまえ。って、なに？” 鍋木成徳
 「フウ~~~~ン」??? 鍋木成徳
 グニュグニュ??? 鍋木成徳
 シクシク、エンエン、ウワーン!?? 鍋木成徳

手づくりのイメージ絵本「シーン ポコ」 鍋木成徳
 “ととととあわせてととととあわせ…”
 ことばと遊ぶ文法の授業 荒川信行+田中かほる
 解説／新しい「ことばの教育」の方向を示す 伊東信夫

ことば遊びの授業

I—ことば遊びの授業① 笑いとナンセンス

子どものことばは遊びがいのち 鈴木清隆
 子どものことばは小さな宇宙 鈴木清隆
 子どものことばは笑いが生命 鈴木清隆

II—ことば遊びの授業② ファンタジーと物語

子どものことばは即興でよみがえる 鈴木清隆
 ことば遊びは子どもの〈生〉をふくらます 鈴木清隆
 などなど、ななに？ 鈴木清隆
 異質なものの結びつきがファンタジーにさそう 鈴木清隆
 物語のレッスンは五感から 鈴木清隆

III—ことば遊びの授業③ 伝承となぞとき

笑いといじわるは、子どものものだ 鈴木清隆
 子どもはことばで未知を探検する 鈴木清隆
 子どもはことばの謎を楽しむ 鈴木清隆
 ことばを積木のように遊ぶ 鈴木清隆
 ことば遊びの楽しさはやらなければわからない

ことば遊び六人衆がやってみたら 鈴木清隆

IV—ことば遊びがことばの 基礎をつくる

物語あそびへの招待 ジャンニ・ロダーリ『フ
 ァンタジーの文法』を読む 里見実
 写真文字あそび「いす」 川島浩
 単語あそび 複合語づくり、熟語づくり、慣用
 句あそび 伊東信夫
 「想像力」があいことば
 連想ゲームからことば遊びへ 井坂升美
 飛び出した、須田君
 子どもが詩をかくとき 井坂升美
 “漢字をぜんぶおぼえたい。”
 「漢字しらべ」の授業 井坂升美
 漢字のユーモア 遠山啓
 親子で遊ぶことば遊び 里憲子
 授業「びよびよ」が生まれるまで
 ことばをゆたかなイメージに 山本正次
 解説／なぜ、子どもは「ことば遊び」を喜ぶ
 のか 伊東信夫

漢字あそび、ひらがな遊びの授業

I—漢字あそびの授業①

漢字あそび入門 伊東信夫
 日本語の読み書きのきれいな子をなくしたい 伊東信夫
 絵から漢字へ 伊東信夫
 漢字の“分析・総合。” 伊東信夫
 漢字の字源 伊東信夫
 漢字を歌おう 伊東信夫

漢字のしりとり	伊東信夫
II—漢字あそびの授業②	
覚えた漢字は遊んでしまおう	鈴木清隆
漢字を推理する	鈴木清隆
漢字の風景	鈴木清隆
送りがなを遊ぶ	鈴木清隆
漢字の部首であそぼう	鈴木清隆

III—ひらがな遊びの授業

文字かき歌とその授業	
うたい、おどりながら学ぶ	伊東信夫
子どもの心に残るひらがなあそび	
1年生の最初の授業から燃えるものに	石野陽江

IV—子どもの個性を発見する法

子どもの美しさを発見する法	
子どもの個性が全開するとき	伊東信夫
子どもが全身で文章をかいたとき	
ヒロシの冬休み日記	伊東信夫
父島の生活をつづる子どもたち	
子どものよさを見つける仕事	長島忠義

V—国語の授業を楽しくする法

子どもの鋭い文法感覚が生きたとき	
そこに読みの授業のおもしろさがある	伊東信夫
絵本を読んで、お話をつくる	すばらしい絵
本「ふたり」(潮川康男作)	横森さち子
絵本を見て、お話をつくる	
「はるにれ」をつかって	宮崎勇市
授業はマเนอร์なことからはじまる	
国語・授業づくりのヒント	植田博資
「おしゃべり」は作文ずきにする	
国語・授業づくりのヒント	岡田文男

国語の授業、なぜおもしろくないか	
私がいま考えていること	清原久元
ぼくの受けた国語教育	宮島英紀
これが国語の授業とは	西豊之輔+西初恵
朝鮮語を学んだら日本語を見る目が広がった	勝木渥
解説/遊びはチエの魔法箱	鈴木清隆

新しい読みの授業

I—ことばとイメージ

ことばとイメージ	
学校のことばと演劇のことば	竹内敏晴
総合教育としての「スーホの白い馬」の授業	
イメージを追求する	鳥山敏子
からだ・ことば・イメージ	レオ=レオ二作,
谷川俊太郎訳「スイミー」を読む	鳥山敏子
からだ・ことば・イメージ	レオ=レオ二作,
谷川俊太郎訳「スイミー」を読む	鳥山敏子
音・イメージ・踊る	
シンセサイザーで「スイミー」を踊る	鳥山敏子

II—朗読と読みとり

教材夕鶴	木下順二
朗読が読みとりを深める	
「夕鶴」の授業記録(上)	伊東信夫
読みのなかでことばを体験する	
「夕鶴」の授業記録(中)	伊東信夫
朗読と紙芝居のはれ舞台	
「夕鶴」の授業記録(下)	伊東信夫
詩の暗唱	
ことばからいきいきとしたイメージをえがく	

伊東信夫

III—文学作品と読みとり

教材海ぞいの道	花岡大学
花岡大学作「海ぞいの道」の読みとり	
いじめ問題に文学の授業で迫る	木幡寛
新美南吉作「赤いろうそく」の読みとり	
授業書(赤本)の授業とわたしの授業とのちがいを	伊東信夫
安岡章太郎作「サーカスの馬」の読みとり	
文学のおもしろさを奪ったものはなにか	矢吹省司

IV—ことばと創造力

「女」について考える	
石垣りん「崖」の詩をめぐる	松金進
詩の授業私は丙午年に生まれた	
吉野弘「I was born」を読む	松金進
もうひとつの高校生像との出会い	高校生の
つくった民話「あまのじゃくの涙」	松金進
俳句づくりの授業	
ものことばの接点を求めて	松金進
解説/よみにはじまってよみにおおる	山本正次

算数のつまずきその診断と治療

I—たし算とひき算

0の意味と9までの数のしくみ	岡田進
たし算とひき算の意味	岡田進
9までの数のたし算とひき算	岡田進
2位数と、くり上がり・くりさがりの計算	

内容索引

3位数(十進法と位取り)の指導 岡田進
多位数のたし算・ひき算 岡田進

II—かけ算とわり算

かけ算の意味と九九の指導 岡田進
かけ算の九九と応用問題 岡田進
等分除と包含除の意味 岡田進
÷1位数の計算 岡田進
多位数÷1位数の計算と文章題 岡田進
わり算(包含除)の文章題とそのゲーム 岡田進

III—液量・長さ・重さ・時間

液量(l, dl)の指導 岡田進
長さ(cm, mm, m)の指導 岡田進
重さの指導 岡田進
時間の指導(1) 秒・分・時 岡田進
時間の指導(2) 岡田進
時間のたし算・ひき算とその文章題 岡田進

IV—小数のたし算・ひき算

小数の導入 岡田進
小数ののさし作り・数直線 岡田進
小数のたし算・ひき算の計算 岡田進
小数のたし算・ひき算の文章題 岡田進

V—分数のたし算・ひき算

分数の導入と、真分数・帯分数・仮分数 岡田進
同分母分数のたし算・ひき算 岡田進
解説/「つまずき」なんて、こわくない 銀林浩

算数・数学の授業づくりのコツ

I—楽しい算数の授業をつくる①

シンメトリーとの遭遇(上) 木幡寛
シンメトリーとの遭遇(下) 木幡寛
ブロック遊びのたし算・ひき算 東井冷
2キロの道のりを測る 原田智恵子
さんすう花札で文字式と遊ぼう
家庭でもできる数案ゲーム 東井冷+原田智恵子

II—楽しい算数の授業をつくる②

色ぬりタイルで分数を教える
分数の導入 石川充夫
分数のわり算 子どもとともに歩む授業
松井幹夫(記録・石井孝子)
授業者のあとがき 松井幹夫
立体パズルで遊びませんか
おもしろパズルいろいろ 入江敦子
問題づくりって、おもしろい
みんなでつくる応用問題 曾田藩子

III—算数・数学の授業づくりのコツ

自分を変え、授業を変える 算数の授業のマンネリを打ち破る/分数の授業を例に 木幡寛
ジュギョウって、やっぱりキウクツなもんだな 市川良
そうちゃんをだました話 市川良
液量の保存性の授業のこと 市川良
バカらしくて、やがて楽しい授業かな 確率・循環小数・重心の授業 江藤邦彦

IV—数学を楽しむコツ

君が数学アレルギーにならないために
因数分解とつきあう法 江藤邦彦
数学試合 湯谷一
*式の計算。をタスキがけて教える 入江敦子
魔方陣で遊ぶ 恋とロマンの高校数学 江藤邦彦
飛べ、飛べ、紙ヒコーキ 二次方程式を学ぶ 江藤邦彦

V—新数学対話

ほんとうの値を求めることは困難である 黒田孝郎
数学的帰納法とは将棋おしの論法である 黒田孝郎
三角形の内角の和は180度か 黒田孝郎
大きさのない点、太さのない線 黒田孝郎
遠くに去る点、遠くから来る点 黒田孝郎
三角形の内角の和は二直角である 黒田孝郎
解説/はみだしっ子の顔を思い浮かべて 石川充夫

新しい社会科・理科の授業

I—現代社会と私

フォト・ストーリー・バナナと日本人
バナナと日本人(上) 授業者鶴見良行・記録者鳥山敬子
バナナと日本人(下) 授業者鶴見良行・記録者鳥山敬子

II—地球の歴史と私

授業かけがえのない、この「いのち。

生命の誕生・地球と人間 奥地圭子
「生命の歴史・地球と人間」の授業を見て
高江洲敏光

「穴掘り。から」穴埋め。の授業
社会科の授業/地面の下をさぐる 木幡寛
ボクらは歴史の末端に生きている 石井良治

III—地域の暮らしと私

地域の人に生き方を学ぶ

農業・漁業・染色にたずさわる人びと 森山道子
学校のなかだけでは学びえぬこと

地域の人びとの協力で授業を創る 森山道子
小さな卵が1万5677この繭になった

蚕蚕から丹後ちりめんまで(上) 森山道子
22キロの繭から4反の丹後ちりめんができた

蚕蚕から丹後ちりめんまで(下) 森山道子
テングサとりから寒天づくりまで
総合的学習/海・山・街を結ぶ生活文化

小島靖子+矢沢せきみ
なんでもつつんじゃおう 授業・使い捨て時代
にふろしきが生きかえる 武田伝

IV—家族と私

おかあさんの目は、見えないことはないよ
作文を書くことで「わたしの家族」を見つめる
松本美津枝

V—自然と私

子どもは学びたがっている
子どもが求めている理科の授業とは 古市景一
自然を見つめ、しらべる授業 自然を無視す

子どもたちとの取り組み 金井都夫
シャボン玉のふ・し・ぎ 阿部昌浩
火おこしの授業の成功をねがって 菅龍一

VI—原子の世界と私

原子の地図で物質探険
ツッパリたちも夢になる金属の学習 古市景一
見えないものが見えてくる

科学の学力とは 平林浩
燃えるとはどういうことか 化学変化入門
<燃焼>の授業書ができるまで 平林浩

解説/見えないものを見えるようにする授業
奥地圭子

子どもの心をひらく表現の授業

—劇・おどり・合唱・遊び

I—共同制作への招待

ワーク・ショップ「共同制作セミナー」への招待
からだと心をひらく仕事 都留由人
ワーク・ショップ(即興劇)への招待

とにかく楽しい劇づくり 高瀬真次+木幡寛
地域の産業・丹後ちりめんの生みの親
「絹屋佐平治」を劇にする 森山道子

戯曲・丹後ちりめん始祖伝 森山道子
絹屋佐平治三幕 森山道子

II—絵をかく

「自然と生活。を描く子どもたち 堀沢敏雄
キミコ方式の美術の授業
無限大への挑戦 三原色で色づくり 松本キミ子
キミコ方式の美術の授業「ゆっくり。を楽しむ
ながら「もやし」を描く 松本キミ子

子どもはお習字で何を学ぶか 篠田志づ子

III—歌をうたう

歌わせられる音楽から、みずから歌う音楽へ
小沢浪代

ドギツク、キタナク、イヤラシク
中学生の合唱づくり 木暮寛
カイジウロックで唱歌をふっとばせ!
伊藤育雄

IV—踊りをおどる

写真そうらん節を踊ろう 川島浩
ソーラン節をやったら、鉄棒ができるように
なった 白井和江

子どもの心をひらく表現の授業
踊りとマット運動 依田節夫

「歩く」ことから始めて、じょんから節を
おどる ならきよとし
学校スポーツからトロアスへ
管理スポーツをやめたら 山本芳幹

V—動く紙芝居・仮面ばなし

動く紙芝居のつくり方
からくり紙芝居「からくり座」 井田清夫
動く紙芝居

焼かれた魚 そのつくり方と上演 井田清夫
「仮面ばなし」にかたずをのむ瞬間
そのつくり方から上演まで 佐藤純二

子どもたちの美術実験室
素材とのふれあいを楽しむ 鈴石弘之

VI—遊ぶづくり

写真ダンボールのお面をつくって遊ぶ 川島浩
ダンボールのお面であそぶ 松延ひろし

内容索引

「語るお面」をつくって遊ぶ
演劇の誕生
段ボールでタイコをつくろう
段ボールで円盤をつくろう
段ボールのブーツでおどろろ
新聞紙でかごボールをつくろう

松延ひろし
松延ひろし
松延ひろし
松延ひろし
松延ひろし
松延ひろし

VII-動き遊び

3・3・7拍子で遊ぼう
歌って動こう、全身で/
音楽から動きが生まれる
ポリ袋で遊ぼう
動く風景
解説/なぜ、いま表現か

松延ひろし
松延ひろし
松延ひろし
松延ひろし
松延ひろし
里見実

美術の授業をつくる

I-その出発点

すべての子どもに絵をかく力を育てる①

新しい芸術の発見

「ニグロの女」の模写を終えて シケイロス作
「ニグロの女」の模写 中学校3年
「まき」をかいてみて
「レンガ」と「まき」の描写
中学校1年

名執のりか
久保島信保
金丸弘子
久保島信保

II-芸術作品の鑑賞と模写

すべての子どもに絵をかく力を育てる②

ゴッホの「靴」を学習して
ゴッホ作「靴」の模写 中学校2年
ゴッホ作「馬鈴薯を食う人びと」による版画

塩沢さゆり
久保島信保
久保島信保

中学校2年

久保島信保

III-人物をかく

すべての子どもに絵をかく力を育てる③

美術レポート15歳のほく
自分をかく 中学校3年
くだものを食べる友だちをかく 小学校4年
久保島信保+今村照広

斎藤洋幸

久保島信保

久保島信保+今村照広

IV-「手」を模写し、粘土でつくる

すべての子どもに絵をかく力を育てる④

デューラーの「手」
デューラー作「祈る手」の模写 中学校2年
彫塑「手」
粘土で手をつくる 中学校2年

中込直

久保島信保

東条えい子

久保島信保

V-自然を描写する

すべての子どもに絵をかく力を育てる⑤

「マーガレット」の描写 小学校1年
体験をとおして生きものをえがく
小学校3年
観察と鑑賞によって、空間をえがく
小学校5年

久保島信保+横森サチ子

久保島信保+深沢美与子

久保島信保+乙黒善彦

VI-物語を読んで絵にかく

すべての子どもに絵をかく力を育てる⑥

教材「大きな白樺」
アルチューホワ作/西郷竹彦訳
物語「大きな白樺」をよんで絵にする
中学校1年
教材「ブレーメンのおんがくたい」
せたていじ・やく

久保島信保

せたていじ・やく

楽しい物語をきいて絵にする 小学校2年
久保島信保+依田英子
物語をよんで、イメージを豊かにえがく
小学校3年 久保島信保+中山宣

VII-木版画をつくる

すべての子どもに絵をかく力を育てる⑦

木版画をつくる 中学校1年
解説/教科としての美術教育をめざして
鈴木五郎

久保島信保

「性と生」の授業

I-自分のからだと心を知るために

性について 自分を知ること
自分はどこから生まれたの
ほくとわたしの生命のはじまりは
教材女の子
メルヘンで「性」を考える
「女の子」の授業
学校ぐるみの性教育
「性教育の現場」取材ノートから
性教育を男女いっしょで
「からだの発達」の保健指導
こちら、「きゅうきゅうぼこ」
よりそった「ほけんだより」を

根岸悦子

奥地圭子

今江祥智

木幡寛

西嶋大美

鈴木京子

子どもたちに

鈴木京子

II-授業・思春期へのメッセージ

いのちと性を学びあう
赤ちゃんはどこから生まれるの?
お母さんになる女の子のからだ
お父さんになる男の子のからだ

望月正弘

望月正弘

望月正弘

望月正弘

セックスって、なに？ 望月正弘
 卵子をめざす精子の旅 望月正弘
 愛って、なんだろう 望月正弘
 思春期をどう生きるか 望月正弘

III—私にとっての性と生

あなた自身の生と性 M子への手紙 落合恵子
 だれも書かなかったオチンチンの話
 ぼくの「生」についての「性」 はらあつし
 いま、高校生たちは 富松裕子
 性教育は人間教育である 梅村能子
 おとなたちが語った性 糸井治子
 性の神話をうちくたく 山崎典子
 三人娘への性教育 光井千恵子
 教育は性とどこまで付き合うのか 田中正彦
 性教育、落ちこぼれの記 入江敦子
 知りたがりやたちと性 1丁目1番地、小さな
 英語教室での性教育 江藤美代子

IV—女・男と性

妻たちの^{*}性と生。 斎藤茂男
 対談女の自立、男の自立
 性教育の方向をさぐる 落合恵子×遠藤豊吉
 解説/「生と性」を問われる旅 根岸悦子

いのち、食べもの、公害の授業

I—いのちの授業

^{*}いのち。のとうとさを教える 奥地圭子
 「おしっこといのち」の授業 奥地圭子
 うさぎのいる教室
 赤ちゃんの誕生、そして死 新井栄子

カイコを育て、糸をとる
 「おかいご様」のいのちとのふれあい 柘植幾子

II—生と性と死の授業

故郷 ひとりの農婦の死 徳永進
 授業・^{*}死。について 木幡寛
 フォト・レポート豚肉生産工場 大木茂
 飼育から屠殺まで 生と性と死を考える 鳥山敏子
 ひととブタ 生と性と死を考える 鳥山敏子
^{*}死。がわたしにくれた贈りもの
 付添い婦として青春をすごして 新井登美子
 生と死によりそって
 『死の中の笑み』をすすめる 菅龍一

III—飢餓と食料の問題を考える授業

アフリカの写真が、子どもの心につきささる
 写真集「アコロ」を見て詩を書く 大塚博
 アフリカはなぜ飢えるのか 世界の人口と食
 糧の関係を指数関数で考える 江藤邦彦

IV—食べものの授業

海水でトウフをつくる 沖縄・恩納「ひとの会」
 食べものの授業 鈴木清隆

V—公害の授業

石けんづくりの授業
 合成洗剤とどこがちがうか 大深佳夫
 オレたち、なにを食べたらいいの？
 食品添加物から「食」を考える 大深佳夫

VI—食べものが危ない

「食」の荒廃と「いのち」の危機 富田昌志
 土は「いのち」のみなもと

農とくらしをつなぐ旅 鈴木清隆
 フォト・レポート人間への警告
 モンキーセンターの奇形猿の叫び 大谷英之
 わたしらは農薬がこわい…… 宮島郁子
 あやしい探検隊と大フライパン
 食べものことから 宮島郁子
 檻のなかの魚たち 食品公害とからだ 宮島郁子
 解説/いま、なぜ「いのち」を問うのか
 鳥山敏子

いきいきとした学校行事と学級づくり

I—学級づくり・行事づくりは

子どもが主人公

小先生の教室奮闘記 魚つり、竹とんぼ大会 岡本操
 子どもを本好きにする作戦 教室のなかの子
 どもランド・子ども図書館 奥地圭子
^{*}三角馬。で学校一周
 こんな遊びをやってみませんか 平林浩
 プールのなかでお誕生会
 1年生の「ひよこ児童会」活動 橋口浩夫

II—教室を子どものものにする作戦①

子どもたちがつくるキックボール大会 望月正弘
 エンピツ新聞奮闘記 望月正弘
 作文集「わたしの歴史1・修学旅行記」
 望月正弘
 詩集ノートのなかから 望月正弘
 家庭科事件 サークル学級誌(1) 望月正弘
 <男女仲よく>ものがたり

内容索引

サークル学級誌(2) 望月正弘
 子どもの眼に先生もハッスル 望月正弘
 <男女仲よく>学級の危機 望月正弘
 はじける! 子どもパワー 池ヶ谷亘枝
 子どもたちはレクリエーションが大好き!

池ヶ谷春雄

みんなでリヤカーを引っぱって

クラスでやった廃品回収

池ヶ谷春雄

III-教室を子どものものにする作戦②

真美ちゃんのいる教室

池ヶ谷亘枝

おそいけど、これでもがんばってるんだよ

池ヶ谷春雄

すぐおこりださないで、和代ちゃん

池ヶ谷春雄

算数ざらいの道男くん

伊東巖

トイレ事件

伊東巖

登校拒否事件

池ヶ谷亘枝

さつまいも事件

池ヶ谷春雄

IV-教室を子どものものにする作戦③

みんな、もう帰るの?

池ヶ谷亘枝

子どもが変わってきている

小俣軍平

家庭訪問余話

小俣軍平

小先生の山下考古学教室

小俣軍平

春の野に出よう

小俣軍平

鉄砲洲のファンタジー子たち

水野直子

V-なぜ行事が子どものものにならないのか

りっぱな行事って、なんだ

行事の練習はがまんの練習!?

鈴木由利江

突然、「君が代」が響きわたった

卒業式のミステリー

福田緑

なぜ、行事が子どもと教師のものにならないのか
 小俣軍平

VI-行事を子どものものにする作戦

写真小学1年生のお泊まり会

川島浩

写真和光小学校の運動会

川島浩

写真中学生の援農

英伸三

写真7人の卒業生

川島浩

VII-ヒロシマへの修学旅行

差別される自分と、これからの生き方

ヒロシマで障害者として発見したこと

八王子養護学校高等部

8年目を迎えたヒロシマ修学旅行(1) 広島の人たちのあたたかい心に支えられて

柴田迪春

8年目を迎えたヒロシマ修学旅行(2) 被爆者の語り。のなかによみがえる8月6日

柴田迪春

8年目を迎えたヒロシマ修学旅行(3) 現代の「原爆」をみつめる若者たち

柴田迪春

8年目を迎えたヒロシマ修学旅行(4) 子どもたちが広げる平和への願い

柴田迪春

ヒロシマへの学習旅行

和光小学校6年生の戦争学習

芦沢牧

解説/子どもが主人公の学校行事とは

小俣軍平

そらをさわらせて 作文を書く 平林浩

おこられて、はずかしかったよ

書きたいときに文にする 平林浩

数字とタイルと意味をつなぐ

数字とタイルと意味をつなぐ 平林浩

II-しのぶちゃん日記②

予想して討論する

実験を手でたしかめて

<空気と水>の授業 平林浩

予想と討論の楽しさを知る

<空気と水>の授業:続 平林浩

アリはさわってもわからない

<足はなんぼん>の授業 平林浩

*世界中。をイメージする<足はなんぼん>

の授業:続 平林浩

III-しのぶちゃん日記③

かたちと色を表現する

はじめての美術の授業

花びらとドーナツを描く 平林浩

*太さ。を意識する 手でふれて描く

人間を描く 絵の具に石の粉を入れて

みんなにはこう見える

盲人が絵をかくこととは? 平林浩

IV-しのぶちゃん日記④

いきいきと動く

自由なからだをつくる 運動会に参加する

平林浩

ビーズとんぼの小先生 子どもまつり

こままわしに挑戦 こままわし大会 平林浩



I-しのぶちゃん日記①

作文と算数

学校生活へ踏み出す

しのぶちゃん、ほんとうに見えないの 平林浩

V-1のぶちゃん日記⑤

学校生活、みんなといっしょ

しのぶちゃんの抗議

しのぶちゃんとクラスの子どもたち 平林浩

見えないからって、いばるな

友だちからの要求 平林浩

ともに力を出しあって

ウサギ当番もいっしょに 平林浩

地球を持ちあげてみたいな

「しのぶちゃんの日記」から 高橋しのぶ

VI-1障害児が普通学級で学ぶとは

しのぶちゃんを育てた小学校生活 普通学級

で学んだ6年間をふりかえって 高橋キヨ子

小さな教育革命

平林浩「しのぶちゃん日記」を読む 津田道夫

小さな教育革命 続：平林浩「しのぶちゃん日

記」を読む 津田道夫

解説／ともに学びあい、ともに育ちあう

丸木政臣

障害を超越して生きる

I-1地域で障害児とともに生きる

「ひまわり教室」の実践

心のこみちを開く 障害児の通園施設「ひまわ

り教室」での実践 徳田茂

もっと子どもを信じたい 障害児の通園施設

「ひまわり教室」での実践 徳田茂

お母さんといっしょに育つ

障害児の「ひまわり教室」 徳田茂

お母さんが、いちばんいい 無気力な障害児

Eちゃんがヤンチャに変身するまで 徳田茂

II-1障害者と生活をともにする

ともに生き、ともに老いる

障害者と泣き笑い30年 近藤原理

タマキチ、故郷へ帰る 障害者と泣き笑い30年

近藤原理

お料理づくり、ごはんづくり

知恵おくれの人たちといっしょ 田村洋子

III-1親と子で障害を超越

障害児だからこそ、みんなのなかで育てたい

全盲の子を地域の学校に入れて 梯侑子

障害をもつ子が教師を変えるとき 子どもは

それぞれの「生」を生きている 溝口よう子

障害児に立ちふさがる校門

養護学校から地域の中学校へ 横山茂代

知恵おくれの子とともに育つ

「知恵おくれの子」とともに学ぶ 福留春海

母と子の学習会

わたしの複雑な不安 貝瀬明美

「障害児差別アンケート」を許したのは、だ

れか 桑島啓介

IV-1教師と子どもで障害を超越

絵を描くよるこび 障害児学級から生まれた版

画作品カレンダー 堀沢敏雄

ことばを話せない真理子のVサイン 石川充夫

学ぶこと、生きることを発見した子どもたち

子どもは子どものなかで育ちあう 平林浩編

障害と戦って生きる力を育てあう

淳平君と23人の子どもたち 荘司ゆき

V-1脳性小児マヒを超越

写真K子ちゃんのこと

川島浩

写真1年たったK子ちゃん

川島浩

写真K子ちゃんの機能訓練

川島浩

VI-1障害児がことばを獲得する

心のなかのことばを表現する「障害」児が普

通学級のなかでことばを獲得する(上) 寺崎和憲

文字は自分を表現する武器「障害」児が普通

学級のなかでことばを獲得する(下) 寺崎和憲

あたりまえの人間としてかわるなかで

普通学級のなかでことばを獲得する「障害」児

寺崎和憲

動く手づくり絵本でことばを教える

その作り方と実践 原田智恵子

教材うりこ姫とあまのじゃく

出ないことばが出た!

「うりこ姫とあまのじゃく」の授業 高橋いさ美

解説／あたりまえのひとりの「ひと」として

平林浩

管理主義とはなにか

I-1管理主義の本質とは

<善意>としての管理

日高六郎

対談民主主義ファシズムをけっとばせ!

管理社会をどう超えるか 日高六郎×森殺

「授業」という名の「管理」

授業も遊びも点検、点検 椎野美和

II—管理教育のカメラ・レポート

- 写真管理という名の暴力 横田暢郷
 写真しつけられる子どもたち 横田暢郷
 写真日生学園 全寮制・全力主義の高等学校 川島浩
 写真 *熱中時代。の高校生 川島浩
 愛知・東郷高校の林間学校にて

III—管理教育の現場レポート

- この無気味な世界 *非行ゼロ。の学校の内部
 を映しだしたら 星野敏子
 ある日、学校で
 生徒たちの荒れはおさまったけれども 管理
 教育はどうなったか。それで生徒は… 角野蓉子
 教育事件の背景
 熊本でおこった丸刈り強制違憲裁判ほか 春木進
 水道方式を実践して担任からはずされる
 愛知の「担任はずし、訴訟」の報告 館崎正二
 オートバイ運転免許取得者名簿で生徒処分
 つままる学校と警察の協力体制 保坂涉

IV—子どもたちからの抗議

- 中学校、この現実には言いたいこと
 小学校教師から 奥地圭子
 参観授業のためのリハーサル 尾高久
 ろうかに出されたばかりの机 長田ゆたか
 ミーちゃんの一日 奥地結子
 少女たちの瞳に映った学校の日常 結子ちゃ
 んと陽子ちゃんの文通 奥地結子+望月陽子
 *はみだしっ子。の教育抗議
 私塾 *タメ塾。の実践から 工藤定次
 *はみだしっ子。が私に教えてくれたもの
 小俣軍平

V—父母からの抗議

- 朱色のシャツにたくした青春
 母親の立場から中学校教育に発言する 皆川順子
 先生のためは、子どものためか 母親が参観
 したわが子の体育公開研究授業 宮村文字
 母親のここが子どもをだめにする?! 中学生
 の子育てにあたって注意すべき20か条 掛川悦子
 先生も制服を着るの? 横浜市で起こったこと
 いのうえせつこ
 『きまり』はだれのためのものか 大貫淑子
 きまり・きまり・きまり 大島千枝
 学級委員はおそろしい 宮島郁子

VI—子どもの人権と管理

- 子どもの人権・「平和」を踏みしめるもの
 久保田復
 「生徒「名簿」問題に抗議する市民集会」で
 の発言から
 声をあげて、当事者になるう
 生徒「名簿」問題に抗議する 垣野佳子
 「健康教育」とはなにか
 小児科医として学校に問う 山田真
 心臓病児が救われる 木村昭子

VII—「明日」の風景 カメラ・レポート

- 写真銃を握る子どもたち 京田道夫
 写真二宮金次郎像
 どこに向かって歩くのか 大木茂
 写真戦争の痕跡 39年目の特攻隊墓地 大木茂
 写真水子供養 大木茂
 写真靖国神社 8月15日 大木茂
 写真日丸 大木茂
 解説/*加害者。の一人として 石川充夫

管理主義を超えるために

I—管理主義を超えて生きる

- 座談会われら管理主義を超えて
 足立節夫+池ヶ谷春雄+池ヶ谷巨枝
 +伊東巖+久保田道子+近藤貞巳
 +滝浪喜久雄+西沢紀生+橋本富次
 +福田辰雄+望月正弘+芳賀直義
 のたり精神で、のたりと
 管理教育をかわす 宮沢望
 掃除ぐらい自分でおやりよ、先生 菊池浄
 娘よ、しなやかにたくましく
 学校の管理主義にひるむな 三島静枝
 公立高校の可否に生活チェック(頭髪・服装
 ・態度)は許されるか 石田和夫

II—序列主義社会に生きるために①

学歴社会をくぐる

- 受験とつきあう法 森毅
 大学入試の内幕 森毅
 イヤなことのお楽しみ方 森毅
 受験戦争のなかの数学 森毅
 高校と大学との壁 森毅

III—序列主義社会に生きるために②

「私」にこだわることで

- 自分本位の説 森毅
 他人と自分とのあいだ 森毅
 自分にとっての勉強 森毅
 文章のすすめ 森毅
 自分ひとりのドラマ 森毅

IV—序列主義社会に生きるために③

軍隊からサロンへ

美談とのわかれ	森毅
ユトリについて	森毅
常識をいかに超えるか	森毅
悪いことのお勉強	森毅
人生のあそび	森毅

V—序列主義社会に生きるために④

その生きのび方

管理主義の内面化	森毅
管理と自由について	森毅
ヒトというサルのために	森毅
教室の演劇論	森毅
佐保利流管理者心得	森毅
管理社会での生きのび方	森毅
解説/人間冒瀆の思想	斎藤茂男

登校拒否を超えるには
生活点検とはなにか

I—登校拒否とはなにか

子どもが学校を棄てはじめた	学校とはなにか/登校拒否から見てくるもの	奥地圭子
子どもの発する“SOS”をキャッチするには	臨床の現場から見た学校を拒否する子どもたち	内田良子
登校拒否に悩む先生と親へ		渡辺位

II—登校拒否体験を語る

座談会なぜ学校に行かなくてはいけなの？	登校拒否体験を語る
---------------------	-----------

篠原史+石井千代美+鈴木香+増田益博	
荒井秀之+奥地拓生+倉内亨+奥地圭子	
子どもの心を傷つける大人たち	ルボ上野初枝
登校拒否したことで、自分を発見する	ルボ宮島郁子
櫛の枝が芽吹く日まで	ルボ小尾芳枝

III—登校拒否を超えて生きる

息子は陶工として生きる(上)	
登校拒否がなかったら、いまはない	斎藤美智子
息子は陶工として生きる(下)	
一握の粘土が生きる道標になった	斎藤美智子
考えてもみなかった親子関係が実現できて、	
いま、その楽しさにひたっています	
登校拒否の母親の体験記	遠藤良子
子どもたちが生きる“いま。とつきあう	
登校拒否児の親として、塾教師として	池貝恒則
登校拒否の生徒とともに	斎藤央
登校拒否は子どもの権利	村松英夫
登校拒否をのりこえて	
“学校はあくまで。と叫ぶたかし	橋口治夫

IV—生活点検って、なんだ

生活リズム運動(生活点検)って、なんだ	池亀卯女
「生活点検」を考える	
ある母親からの疑問に答えて	竹内常一
子どもを教育する権利と責任は親にある	
親として、教育研究者として生活点検を考える	
	今橋盛勝

V—生活点検をどう考えるか

恐いです、やっぱり	
生活点検の思想と方法を批判する	毛利子来

生活点検の実践をどうみるか

毛利子来さんの批判にこたえて	藤田和也
対談*生活点検。をめぐって	
批判と反論をふかめる	藤田和也×毛利子来

VI—生活点検、この現実

生活点検、やめてよかった	金子哲也
マル・バツばかりが気がかり?!	東郷利子
勉強のことより忘れ物がだいじ?!	桑野啓子
たたけば忘れ物がなくなる?!	山田和子
いすを奪われ、床で勉強?!	浅井京子
てんけん	佐原由美子
点数のためにはげむ	
生活点検とわが子(1)	平林順子
それは、熱心で、いい先生	
生活点検とわが子(2)	鈴木芳子
首からカードをぶらさげて	
生活点検とわが子(3)	小坂光代
生活点検に異議あり	小俣軍平
小児科医として生活点検を考える	石川憲彦
解説/春風にさそわれて	松崎運之助

荒れる子どもたちと自立への道

I—荒れる子どもたち、原因はどこに

ツッパリ VS おとな(上)	
「荒れる」原因は、やっぱりおとなに	柴田迪春
ツッパリ VS おとな(中)	
若者たちの未来をばばものは	柴田迪春
ツッパリ VS おとな(下)	
タテマエ社会のなかをホンネで生きる	柴田迪春
あたりまえの高校生のなかの非行のきざし	

非行白書をめぐって 三田典玄
埼玉・戸田市のばあい 長谷川立子

II—自立への道はどこに

学校から足を洗う
ぼくらの〈場〉をつくろう 保坂展人
生徒の、生徒による、生徒のための学校
寺小屋学園の記録 松井エイコ
若者が学びへ旅立つとき 尾形憲
ニセ学生のすずめ 増沢幹夫
やさしさを歌にこめて あるフォーク・シンガ
一の歌と人生 語り手高田渡・聞き手木幡寛

III—若者たちは発言する

死にきれなかった自分を語る
若者たちが生活史をつづることの意味 植田泰史
高校生は語るオレたちと高校
松井エイコ+太田裕一+風間寿史+鈴木節美
+江川栄子+関根真奈美+中谷洋子
高校生のホンネいま何を感じ、何を考えてい
るのか 上野俊哉
テストって、ぼくたちの何ををはかるのか
原田浩司
なんのためにテストをやるのか 小林真
見切り、輪切り、足切り
高岩明+加納芳子+高山美子
+新川孝子+松本有二十+橋本浩
数学、この恐るべきもの 長谷部祐子
数学に落ちこぼれた私の勝手な言い分
藤原久江
現代国語は暗記科目か?! 中学校3年生
私の受けた音楽教育 須山みち
被爆体験を学んで

菱谷浩三+荒川由喜子+西谷洋子
おもしろい授業、おそろしい授業 苑田奈月子
先生、もっと親身になって 石田美香
中学生は発言する聞いてほしい、ぼくらの言
いぶん 聞き手長谷川立子
中学生は発言するオレたち、ツッパルしかない
じゃん 聞き手宮島郁子

IV—若者たちは行動する

大きな夢を気球にのせて 高校生たちの熱気球
の製作から打ちあげまで 筒井誠一
私の眼で見たフィリピン 日本の企業進出と買
春観光と戦争の傷跡 本多たけし
アウシュビッツで考えたこと
平和への旅 早乙女輝
てさぐりの青春 まっくら間のなかで 近藤光子
差別問題にとりくむ高校生 長谷川立子
高校生マンガ座談会マンガって、いいわア
文京高校マンガ研究会
ぼくらのマンガ雑誌 東井巖・東井学

V—若者たちの風景

写真ビューティフル・サンデー 山下寅彦
写真エリートって、なんだ
これは何の風景でしょう? 山下寅彦
エリート百態 永家光子+西豊之輔
私にとって東大とは 柳井敬光
解説/悩みは若者の必修課題 江藤邦彦

「いじめ」その原因と対応

I—なぜ、「いじめ」が起きるのか

弱いものが弱いものを殺す
横浜浮浪者襲撃事件、それから1年 横川和夫
なぜ、リンチ事件がおこったのか
わが子の場合 国司郁子
なぜ、息子はいじめられつづけたのか
先生がはたす役割は大きい 波田野美子
くちなしの実が開いた 子どもたちが綴る「い
じめ事件」始末記 水野直子
大介君はなぜ、いじめられるのか
NHK「弱いものいじめ」取材ノート 宮本徹
「いじめ」の奥底にあるもの NHK「弱いも
のいじめ」報道・3000件の反響から 内林達夫
解決への手がかりを求めて
NHK「弱いものいじめ」取材ノート 宮崎経生

II—「いじめられっ子」の自殺事件①

林賢一君の場合
いじめられっ子を死に追いやったもの 大島幸夫
担任はいじめられっ子になにをしたか 大島幸夫
「謝罪文」のウソとずるさ 大島幸夫
全校追悼集会と組合分会レポート 大島幸夫
大人たちの荒唐 大島幸夫

III—「いじめられっ子」の自殺事件②

中尾隆彦君の場合
もう一つの「いじめられっ子」自殺事件

驚くべき恐喝の事実
事件をめぐる教師たちは…
教育官僚は無責任をきめこむ

大島幸夫
大島幸夫
大島幸夫
大島幸夫

IV一母子無理心中事件
岩崎厚君の場合

横浜・母子心中事件
学校側の責任逃れに級友たちが反論
学校教育のなかの^{*}保安処分。
解説/^{*}ちがいがい。を認めない学校

大島幸夫
大島幸夫
大島幸夫
宮沢望

子育て・子育て・親育ち

I一子どもの性格としつけ

子どものいたずらとしつけ
子どもがみずから育つ力
子どもの個性をどう育てるか
その子なりの性格をどう生かすか

秋山さと子
秋山さと子
秋山さと子
秋山さと子

II一ファンタジーと子ども

ファンタジーと攻撃性
子どもの残酷さとやさしさ
子どもが住んでるお伽の国
日本の昔話
世界のファンタジー
ファンタジーの功罪

秋山さと子
秋山さと子
秋山さと子
秋山さと子
秋山さと子
秋山さと子

III一子どもの世界

子どもの性
子どもの思考
子どもは感情の動物

秋山さと子
秋山さと子
秋山さと子

子どもの直観のするどさ
子どもの心とおとなの心

秋山さと子
秋山さと子

IV一動物の子育て①
親と子の結びつき

コクチョウの抱卵
動物の子別れと人間の子育て
カンムリヅル
おかしな夫婦 ウミネコとカモメ
サカナとカエルの文化
ツルの世界の学校
フエフキガモの繁殖
日本の動物園ではじめての成功
サル山騒動でんまつ記

杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏

V一動物の子育て②
子育てのドラマ

春は繁殖の季節
サカナの産卵のいろいろ
暗くなるまでまって
敵のいなくなる夕間に孵化する魚
サケの^{*}母川回帰。の秘密
多摩川のサケ放流騒ぎ
オスが子育てをする魚 タツノオトシゴの産卵
^{*}ジョーズ。ばかりがサメじゃない
人間に育てられたペンギン

杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏
杉浦宏

VI一子どもをとらえなおす本

生きている子どもを求めて
一世紀生きつづけたこの怪物たち
マーク・トウェイン「トム・ソーヤーの冒険」

遠藤豊吉
遠藤豊吉
杉浦宏

「ハックルベリィ・フィンの冒険」
チューホフ「曠野」を読んで
体験を砥石として マクシム・ゴーリキー「幼
年時代」と「世の中へ出て」
それはフランスのことではない マルタン・
デュ・ガール「チボー一家のジャック」
アンケート子どもをとらえなおす本
むのたけじ+古川原+中山渡+三浦つとむ
+梅根悟+上野瞭+小宮山量平+宮島郁子
長谷川立子+甲賀仙次郎+唐井永津子
+山本正次+八杉晴実+堀沢敏雄
+金沢嘉市+田原総一郎+佐野美津男

山中恒
遠山啓
佐藤忠男
新居信正

VII一子どもの世界はどう変わったか

座談会子どもはどう変わったか
遠藤豊吉+森毅+桐山敏之+遠山啓+菅龍一
20年間で子どもはどう変わったか
母親塾から見た子どもたち
^{*}未来。を語る子どもたち
この現実的な夢
^{*}点取り虫。よ、どこへ行った！
子どもが見えなくなった、はたしてそうか
解説/子どもって、なにかしら？

長谷川立子
石井孝子
遠藤豊吉
清原久元
曾田蕭子

地域をつくり変える教育実践

I一私教育のすすめ

私塾のすすめ 公教育と私教育
教育を人びとの手に
続・ハイバスのすすめ
塾ってなんだ

森毅
土師政雄

内容索引

塾は学校を補うものではない
学校ごらい、私塾へ集まれ
塾が学校を超えた

八杉晴実
八杉晴実
丸木政臣

II—お母さんの私塾づくり

母親の私塾づくり 塾づくりのコツ
歌あそびのたし算 お母さんも、パネルシアタ
一でやってみませんか
歌あそびのひき算

原田智恵子
原田智恵子
原田智恵子

パネルシアターで遊びながらの算数
英語なんて、こわくない

1丁目1番地、小さな英語教室
塾って、すばらしい

江藤美代子
江藤美代子

1丁目1番地、小さな英語教室
英語の落語 1丁目1番地の英語教室

江藤美代子
江藤美代子

III—地域をつくりかえる親たち

地域を創る母親パワー
お母さんが小走りですくとき
地域を変える食べもの運動
お母さんパワーが、自給センターをつくるまで
松根敏子(聞き手・松村弘子)

東井冷

語れば、何かが始まる
心のなかに、暮らしのなかに
人と人とのよい結びつきを求めて
なかで女たちが育てる「かたる会」
校庭から土が消える!

曾田薫子
暮らしの
曾田薫子

浦和市・ダスト舗装の報告
子どもたちに土を返せ!
お母さんたちの教育運動
子育てをとおして自立する母親たち
『お母さんの教育運動』に感動して

小笠原雅子
小笠原雅子
小尾芳枝

IV—親と子の地域文化づくり

人形・脚本づくりから上演まで
お母さんの人形劇団「星の子」
あちこちに小さなドラマが生まれる
が活躍する三角広場の「おまつり」
子どもたち、あつまれ!
地域の文庫活動が曲がり角
解説/草の根保守主義から草の根民主主義へ

芹沢幸枝
子ども
田上正子
大沢順子
安藤多穂子
永畑道子

家庭教育・幼児教育の実践

I—幼い子を育てるとは

幼児教育について思うこと
座談会子どもも育ち、親も育つ
幼児教育をめぐる
鴻巣ひろみ+内藤智子+石井恵美+
+西村光夫+土肥かおる+奥地圭子
教育の出発点が心配だ
幼稚園にいたいこと
母親たちのつづき
偉大な母たち 狼に育てられた子の話

遠藤豊吉
小俣軍平
上野初枝
石田宇三郎

II—子どもから出発する幼児教育

「教える。ことから「育てる。ことへ」
かしのき保育園の実践
かしのき保育園・絵文集『はたらくおかあさん』から
遊ばされる子から遊ぶ子へ
亀が「同保育園の実践」
幼児のための数あそび

浅井典子
石井恵美

清瀬富士見幼稚園の実践 渋谷金太郎

III—日本の家族はどこへいく

日本の「家族。はどうなるか
亭主の反乱
高度経済成長がわが家を襲う
座談会親の生き方が問われている
『父よ母よ!』をめぐる
斎藤茂男+浅川道雄+太田良子
+丸山美津子+武田京子+掛川悦子+亀井弘江
+神田ふみよ+宮島郁子
テレビにお守りされるおとなたち
テレビが子どものことばを奪う
生後10日めからのカリキュラム
おむつの当て方を知らないお母さん

佐田智子
清野とし子
岩佐京子
宮島郁子
須田靖子

IV—わが家の子育て・親育ち

体当たりの保育・子育て・親育ち
後悔しない子育てをしたい
新米ママの願い
なま身の人間として生きる
わが家の学力問題
むすこよ、心の落ちこぼれにならないで
むすこが親離れするとき
むすこにはじめてなぐられて
成績なんかいい、元気で育って
子どもの病気とたたかって

佐藤静江
山川光子
山口緋砂子
木村文子
糸井治子
亀井瑞世

V—子どもに戦争体験を伝える

子どもに伝えたい戦争体験
声の大にして戦争反対を叫びたい
二冊の戦争記録を読んで

神保登代・白崎富江
高木志づる

忘れられないラジオの叫び声 住吉順子
戦争のむごさ、あわれさを思う 坂口哲子

VI—子ども、このおもしろいもの

子どもって、おもしろい 長谷部順子
数の根っ子をたずねて 曾田薫子
あめく雨>はどうやってかぞえるの 宮口正子
ゆっくり、おつくり 糸井治子
裕ちゃんの手紙 伊藤博美
子どもの心にひびく本
まご娘と「びよびよ」 山本正次
受験食 宮島郁子
クソババア！ しまゆうこ
遊びのいろいろ 戸塚康
夏休みと子ども 戸塚康
子どもを生きかえらせる夏休み
いたずら少年団の活動 戸塚康
解説／家族とは、子育てとは 原田智恵子

親と教師が手を結ぶ教育実践

I—親と教師でつくる学びの場 「ひと塾」とはなにか

見えない学校「ひと塾」とはなにか 遠山啓
「ひと塾」づくりの記 平林浩
母親としての参加の記 黒沢美恵子
「ひと塾」を受講して 高木志づゑ

II—「ひと塾」に参加して、 なにかが変わる「ひと塾」受講の記

大講「ひと塾」で何かが起こった 木幡寛
'77年・榛名「ひと塾」参加の記

則松和恵+木村亮子+国広圭子+山口郁代
「鉄をつくる」授業にゆさぶられて 平吹誠司
手さきを器用にし、感覚をみがく

「美術」の講座に参加して 宮崎勇市
*そうらん節。受講の記 東北「ひと塾」
ファンタゾめのこころみ 「ひと塾」その後 大沢順子
水野靖子

III—沖縄・全国「ひと塾」って、なんだ 「ひと塾」づくりの記

平和教育と沖縄 照屋正雄
沖縄の教育、いま 有銘政夫×遠藤豊吉
フォオ・レポート沖縄の文化と交流する 大木茂
お母さん、沖縄へ行く 小暮さちよ
ウチナーンチュの「ひと塾」体験記
沖縄のひとりの父親として 興那嶺康正
フォオ・レポート授業の講座と参加者 大木茂
沖縄「ひと塾」づくりの記 我如古盛治
「大きな数」の授業に心をうたれて 大城澄子
授業で子どもと遊べる教師に 佐渡山弘美
一貫して子どもをだいにする姿勢
安座間静子
フォオ・レポート沖縄「ひと塾」ライター
大木茂

'83年・全国「ひと塾」との出会い
比嘉秀夫+砂川幸子+幸喜政子
+野原美千代+有銘政夫
フォオ・レポート沖縄の先生との交流会 川島浩

IV—地域でつくる学びの場 小さな「ひと塾」とはなにか

孤立から連帯へ
かながわ「ひと」の会ができるまで 上野初枝

母親三人よれば「ひと塾」ができる
「いばらき・小さなひと塾」のあゆみ 松村弘子
第4回「いばらき・小さなひと塾」からの
報告 伊藤ひろみ
北九州「ひとの会」、がんばってます
奥田暁子+丸山貞子+奥田のぞみ
+田巻幸子+平尾和子
「算数教室」、がんばってます！
北九州「ひとの会」 入江敦子
小さな「ひと塾」からのたより 京都ひと塾
考え、行動する若者たち
かながわ「ひとの会」に参加して 鈴木博子

V—親と教師が手を結ぶために

こんなにおもしろい先生と出会った
先生、がんばれ！ 萩原綾子
ほったたが光っている！
先生、がんばれ！ 掛川悦子+掛川良治
受験校のなかの変わりだね
先生、がんばれ！ 園部利彦
ある土曜日の午後の校庭で
先生、がんばれ！ 菊池祥子
母親ばかりを責めないで 長島淳代
活動家先生と「意識の低い母親」 糸井治子
やはり「子どもは人質」なのか 高橋静江
教師に望むこと、親の姿勢に思うこと
清水道子
私がデジャブバックとき 高木志づゑ
自己的人権は守っても、子どもの人権は守ら
ない教師 森本糾子
あまり、子どもをせきたてないで！
先生から、お母さんへひと言 遠藤勝
解説／いま親であることは 森鋭

〔画集〕いすと麦わら帽子

カラーページ

うし/昼寝する豚/ふきのとう/おおばこ/鶏頭の花/ホルンをふく先生/先生の肖像/とうしゃ版/たけのこ/春・桑の木/夏・桑の木/やぎ/あけび/くさむしり/ブーツ/月夜野橋俯瞰図/おばあちゃん/母/いすとくわ/かいこ/霜のあとの桑の木/笛をふくひろし君/たきぎ/グローブとボール/石楠花/ささえの殻/さくきり/工藤先生にもらった私の手ぶくろ/冬の日の教室

単色ページ

いすと麦わら帽子/うし/一輪車/稲刈り/スコップ/いっぶく/落葉した桑の木/冬の教室/大根ぬき/まき切り/やぎ/くさむしり/さくきり/ブーツ/先生の肖像/昼寝をする子犬

文章のページ

いすと麦わら帽子/絵を描く子どもたち/あけび/「牛」を描く/やぎ/「働く人」を描く/A先生のくつ/桑の木の四季/昼寝をする子犬/鶏頭の花/絵を描くよろこび/薪/石楠花とささえの殻/靴のひも/ゆたかな生活感を

学ぶこと、生きること

I—教育問答①

かけがえのない、この自分
母ひとり、子ひとは、どう育つか
点数をつけない学校(上)
点数をつけない学校(下)
教育か、研究か
未来の学校

遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓

II—教育問答②

5段階相対評価のからくり
人質とはなにか
大きなからだに、小さなぞみ
第三の差別
塾の思想 義務か、権利か
何のために勉強するの?

遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓

III—老若問答①

世の中へ
人間と文化
生きること、死ぬこと
生・死・愛
文料的と理料的と
仕事と地位
日本語について
日本人と戦争

遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓

IV—老若問答②

術・学・観
分析と総合

遠山啓
遠山啓

笑いについて
生地と柄
働くこと、怠けること
競争心について
大目標と小目標

遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓

V—遠山啓の遺稿から学ぶ

点数制度と教育
こわいテストの弊害
数学ひとり旅
創作ノートと未発表原稿から
私の健康法
わが将棋歴
解説/「人間とは何か」を問う

遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
遠山啓
大田堯

科学史の流れに学ぶ

「まえがき」にかえて
科学と思想と世界観

森毅

I—中世ヨーロッパの社会と科学

ルネッサンスと科学革命
天動説から地動説へ

遠山啓
遠山啓

II—円錐曲線とケプラーの天体法則

円錐曲線と惑星の楕円軌道
ケプラーの法則からニュートン力学へ

遠山啓
遠山啓

III—関数の発見と微分積分の確立

関数とはなにか
微分積分学とはなにか

遠山啓
遠山啓

IV—ニュートン力学の成立

運動量保存の法則の発見	遠山啓
ニュートン力学の建設	遠山啓

V—微分積分学の思想と威力

微分積分の意味と方法	遠山啓
微分積分の計算と微分方程式	遠山啓
「あとがき」にかえて	
力学を基礎にした微分積分学	遠藤豊

科学・文学・教育の古典から学ぶ

I—古典との再会①

ドストエフスキー「死の家の記録」	遠山啓
「老子」	遠山啓
ゲーテ「ファウスト」(1)	遠山啓
ゲーテ「ファウスト」(2)	遠山啓
ゲーテ「ファウスト」(3)	遠山啓

II—古典との再会②

ダーウィン「ビーグル号航海記」	遠山啓
ルソー「エミール」(1)	遠山啓
ルソー「エミール」(2)	遠山啓
ルソー「エミール」(3)	遠山啓
ルソー「エミール」(4)	遠山啓
古典とはなんだろう	遠山啓

III—遠山啓日記抄①

1972年1月～6月	長谷部順子・編
1972年7月～12月	長谷部順子・編
1973年1月～6月	長谷部順子・編

1973年7月～12月	長谷部順子・編
1974年1月～6月	長谷部順子・編
1974年7月～12月	長谷部順子・編

IV—遠山啓日記抄②

1975年1月～6月	長谷部順子・編
1975年7月～12月	長谷部順子・編
1976年1月～6月	長谷部順子・編
1976年7月～12月	長谷部順子・編
1977年1月～12月	長谷部順子・編
1978年1月～12月	長谷部順子・編

V—遠山啓の世界

遠山啓の思い出	鶴見俊輔
遠山啓さん 教育への情熱	永井道雄
遠山啓さんのこと	杉浦明平
遠山啓さんと「ファウスト」	井上正蔵
『古典との再会』を推める	
遠山啓と文学	井上正蔵
遠山啓さんは亀さま	栗津潔
行なうことが読むこと	
遠山啓著作集を読むカギ	銀林浩
内なる、そして、外なる序列主義の克服	
「遠山啓著作集」から学んだもの	遠藤豊
解説／あなたにとって遠山啓とは	遠藤豊吉

児童読みもの

善財童子ものがたり(上)

I

みなし子・どもりっ子	菅龍一
生きものを友として	菅龍一
わし、学校に、行きとうない	菅龍一

わし、学校に、行きとうない(続)	菅龍一
奥の院への道	菅龍一

II

仙人和尚のもとへ	菅龍一
仙人和尚とともに	菅龍一
托鉢の波紋	菅龍一
戦争いかん、戦争やめて!	菅龍一
奥の院との別れ	菅龍一

III

朝市童子	菅龍一
海を眺める少女	菅龍一
川下祭	菅龍一
みさちゃんが立ちあがった	菅龍一
都への旅だち	菅龍一

IV

都の今日蓮	菅龍一
少年たちの巢	菅龍一
壮大な計画の準備	菅龍一
少年たちの船出	菅龍一
囚われた童子	菅龍一
脱走、そして一人旅	菅龍一

児童読みもの

善財童子ものがたり(下)

I

言伝て乗師	菅龍一
<現世>を取りもどすために	菅龍一
うかおぼんの死	菅龍一

内容索引

生命を返す。母かん生きて！
生命と毒と
地藏堂の村へ
墓掘り童子

II

侵略を難じ難じつつ死なん
托鉢しゆく平和行進
ベトナムへの船出
武器を運ぶ船が沈むぞ！
思い出した志
森のなかの学校

菅龍一
菅龍一
菅龍一
菅龍一

悪魔の爆弾
ベトナム戦争写真展

III

サッカー場の囚人たち
東洋の聖者、きたる
大統領の涙
みんなのふんを、生きたい

菅龍一
菅龍一
菅龍一
菅龍一
菅龍一
菅龍一

IV—創作短編集

焼く
初恋、または神話教育について

菅龍一
菅龍一

菅龍一
菅龍一
菅龍一
菅龍一

遠藤豊吉
小沢信男

おろかな時刻 石田甚太郎
ムハンマド・アブドル・アジーズ氏のこと
奴田原睦明

水牛（ゲームーサ）
ムハンマド・アブドル・アジーズ作

／奴田原睦明・訳
「樹のはなし」を読まれるまえに 奴田原睦明
樹のはなし

ムハンマド・アブドル・アジーズ作
／奴田原睦明・訳

解説／ととのほぬ生涯悲し 八杉晴実

現代教育実践文庫——全38巻

現代の教育問題の解決に迫る実践のすべて
新しい教育の流れを創り、教育の視点の転換をはかるために

装幀=栗津 潔

造本=各巻AB判・上製クロス製・美装ケース入り

各巻平均256ページ

セット定価=102,800円

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1———教育とはなにが、学力とはなにが | 21———日本人にとっての英語教育 |
| 2———学歴社会と教育のゆくえ | 22———戦争を教える |
| 3———入学試験と内申書 | 23———子どものからだと公害の授業 |
| 4———テストと評価 | 24———教育にとって教科書とは |
| 5———原点としての障害児教育 | 25———教師の生き方、教員養成 |
| 6———障害者の自立と教育 | 26———父母は学校に何を期待するか |
| 7———授業を創るとはなにが | 27———お母さんの教育実践 |
| 8———読み方の授業、詩の授業 | 28———親の生き方、子の育て方 |
| 9———かな文字、作文、読みきかせ | 29———幼児教育、遊び・マンガ |
| 10———漢字の学び方・教え方 | 30———手づくり絵本、手づくり遊び |
| 11———算数の急所、その教え方 | 31———学級通信と学級づくり |
| 12———遊びながらの算数 | 32———学校づくり、行事づくり |
| 13———たのしい算数・数学の授業 | 33———自立する若者たち |
| 14———たのしい科学の授業Ⅰ | 34———若者たちの生活と意見 |
| 15———たのしい科学の授業Ⅱ | 35———子どもの自殺・非行 |
| 16———社会科の授業・現代社会と人間 | 36———登校拒否・校内暴力 |
| 17———社会科の授業・自然と人間 | 37———子どもの人権と管理 |
| 18———ものづくりの授業、家庭科の授業 | 38———ドキュメント・人間と教育 |
| 19———音楽の授業、美術の授業 | 別巻———遠山啓、その人と仕事 |
| 20———だれでもできる体育の授業 | 別巻———遠山啓教育講演カセット・競争心から好奇心へ |

『現代教育実践文庫』に 寄せられた反響

—新聞記事から

冬至夏至

教育とは何かを問
いたされる現在、
どれだけ教育遺産を
掘りおこし受けつい
でいるだろうか。こ
の要望に応えるよう
に「ひと文庫」が刊
行された。

ひと文庫の刊行

この「現代教育実践文庫」全38巻は、故遠山啓生先生の創刊による教育総合誌「ひと」に、十年間の年月をかけて書きためられた研究と実践の収録である。五百人を超える研究者と現場実践者の執筆をテーマ別に集大成して、太郎次郎社創設十周年記念出版である。

遠山先生は字部にも親しい、「落ちこぼれてはなぬ。落ちこぼしたのだ」とのうったえは、今も耳底に残っている。この文庫の監修者のひとり大田堯先生(都留文科大学長・元東大教育学部長)は第一巻の解説で、既成の型にとらわれない「教育の視点」を紹介し

具体的に学ぶことであり、教師、学生、生徒、父母が、主体性をもつて教育にかかわることを重要視するものである。

高度経済成長をへた今日の日本の教育はこれまでにない難局に直面している。それだけに、教育の現実に主体的にとりくむことは、かつてないほど重要であり、そうした姿勢をとる人々にとって、この文庫は貴重な栄養、また励ましになるに違いない。

教える側の先生たちに自信をもたし、教育を受ける側の子ども・父母・若者の発言と実践が全巻を貫いている本文庫は、直接注文で十万二千八百円。全学協北九州支店(電話〇九三—五八一—二二五)に注文すると全巻先渡しで毎月の分割払いもあるとのこと。ウエベニ編集局図書棚に全巻がそろえてあるので、まず手にとってみて、ひと文庫の活用方法を工夫するのにも一方法である。(M)



遠山 啓生

子育てに手がかり

現代教育実践文庫

熊本が生んだ
遠山氏の遺業

人間を育てるための、貴重
な手がかりが、世に出た。さ
ういふ手がかりが、この「
ひと」だ。

「ひと」は、一冊五十五冊
の「現代教育実践文庫」(遠山
啓生先生遺業出版会)の第一
巻である。遠山先生の遺業は、
この「ひと」に集大成されて
いる。遠山先生は、この「ひと」
の創刊に、十年間の年月を
かけて書きためられた研究
と実践の収録である。五百人
を超える研究者と現場実践
者の執筆をテーマ別に集大
成して、太郎次郎社創設十
周年記念出版である。

「落ちこぼれてはなぬ。落ちこぼしたのだ」とのうったえは、今も耳底に残っている。この文庫の監修者のひとり大田堯先生(都留文科大学長・元東大教育学部長)は第一巻の解説で、既成の型にとらわれない「教育の視点」を紹介し

「現代教育実践文庫」全38巻は、故遠山啓生先生の創刊による教育総合誌「ひと」に、十年間の年月をかけて書きためられた研究と実践の収録である。五百人を超える研究者と現場実践者の執筆をテーマ別に集大成して、太郎次郎社創設十周年記念出版である。

遠山先生は字部にも親しい、「落ちこぼれてはなぬ。落ちこぼしたのだ」とのうったえは、今も耳底に残っている。この文庫の監修者のひとり大田堯先生(都留文科大学長・元東大教育学部長)は第一巻の解説で、既成の型にとらわれない「教育の視点」を紹介し

具体的に学ぶことであり、教師、学生、生徒、父母が、主体性をもつて教育にかかわることを重要視するものである。

高度経済成長をへた今日の日本の教育はこれまでにない難局に直面している。それだけに、教育の現実に主体的にとりくむことは、かつてないほど重要であり、そうした姿勢をとる人々にとって、この文庫は貴重な栄養、また励ましになるに違いない。

教える側の先生たちに自信をもたし、教育を受ける側の子ども・父母・若者の発言と実践が全巻を貫いている本文庫は、直接注文で十万二千八百円。全学協北九州支店(電話〇九三—五八一—二二五)に注文すると全巻先渡しで毎月の分割払いもあるとのこと。ウエベニ編集局図書棚に全巻がそろえてあるので、まず手にとってみて、ひと文庫の活用方法を工夫するのにも一方法である。(M)

子どもがつまずいたり、できなかった時、子どもたちの努力の足りなさを責めることはとまずい。まず第一に、教材の質と教師の力量を問うてみる。でないと、教師力が衰えていくから、授業共同研究をすすめる中で、の合言葉でもあったし、十数年たった今でも、ウチマエの足りない言い聞かせながら教壇に立つてきました。「あれほど丁寧に教えてやっているのに、まだわからないのか」

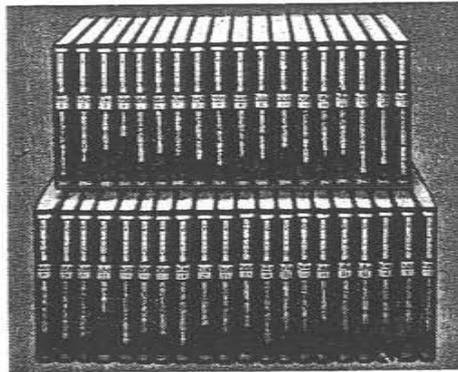
と、どなりつけたくなるのをグッと押えて、「つまずきの天才児たちはどうかわらせてやるかの指導法、私はさぐりはじめよう。よい授業をつくりだす手がかりを与えてくれた教育書のひとつに、「ひと」(太郎次郎社)がありました。「ひと」は、「教師と父母と学生・生徒のための月刊誌」で、創刊されて十年の読者参加のユニークな教育誌です。

数学者の遠山啓氏が一九七二年一月に発刊以来、「教育の荒廃の根本原因は、学校がテストの点で子どもに序列をつける機関になっているから」との主張を一貫してきています。(点数のない学校)という大胆な発想を提唱されている。点数を廃止すれば、子どもたちの内面的好奇心、知的探求心に訴えなかり学習が組織できなくなる。そこで生み出されたのが、「ほんね」で語る(体験)わかる授業。たのしい授業の実践であったのです。遠山啓氏は熊本県下益城郡小川町で生まれ、幼少年期の入口をここで閉じこめられています。

「はじめて教科書を手にした時の感動」と、序列をつけて友だちを失ったことへの疑問が、遠山少年の心を占めていたのです。この少年時代の思いが、「わかる授業」の新しい授業の実践者とならせ、「ひと」の発刊にふみき

ユニークな「現代教育実践文庫」

子どもを守る豊かな武器



伊藤守

二年生の漢字指導をしている時である。授業がおわつて休んでいると、「先生、漢字にも、日本語と同じようにきまり(文法)があるんだね」と大発見したように騒がせて話しかけてきた。一字一字暗記する漢字学習を改め、「ひと」にのった宮下久夫氏、岡田進氏の実践に学びながら、漢字の成立や性格にそくして

読者のページ

テーマ別に集大されて刊行されたのが「現代教育実践文庫」(全38巻)です。この「文庫」の特徴的なことがらを一三あげてみます。

◎教育を受ける側の子ども・若者・父母の発言と実践が全巻を貫いている。それは、教える側の視点だけではない、教育の全体像を明らかにする。教育の原点としての学力問題、障害児教育に、教育の「原型」を求める授業実践こそ、問題解決の焦点、戦争・公害の授業・教科書問題、父母たちの教育参加、子ども・遊び・マンガ・手づくり絵本、子どもを主人公にした行事・学級・学校少年たちの荒れる原因、それと格闘——教育探索の過程で創造され、蓄積された実践の集大成です。教師はもうらんであるが幼稚園・保育園の保姆、施設の指導員、子ども会の指導者、そしてPTA、特にお母さん方にも読んでいただきたい。監修者のひとり斎藤茂男氏(共同通信編集委員)は「一心ある教師たち親たちに、この文庫は一人間の尊厳を奪還し、子どもを守るための豊かな武器を確実に手渡すにちがいない」と、推薦されている(朝日新聞)。

は、いつさい使わず、母親と教師が一緒になって、子どもがすこやかな成長にいついての方途を考えていくという創刊の意図は今日も守られています。読みやすい「文庫」です。「たてまえ」の教育書の多い中で、「ほんね」で語られているこの「文庫」が多くの市民・学生にも読まれることを切望いたします。いとうまもる・神原小学校教諭・山口市大宇佐山須川前

「ひと」には、一行の「たてまえ」もない。一貫して「ひと」で語る(体験)「実践」で詰まっているのが、最大の特徴であり、異色です。

ここについでいる実践例が私に与えてくれた示唆ははかりしれない。

◎この十年間に、教育現場から解決を切望された課題が、すべて網羅されてきたときでも、さまざまな角度から実践的な解答がみつかる。

◎すべての教科・課題が、テーマ別に構成されているので使いやすい。もう一つの現代(ホット)な校

最後の「ひと」の「文庫」の特徴は、教師の世界にだけ通用する専門語

この「文庫」の

●昭和48年～60年までの
13年間の新聞記事から

「ひと」創刊のいきさつ

わたしたちは、日本の子どもたちが賢くすこやかに育ち、平和で高い文化をもった日本の主人公となることを心から願うものです。その理想に向かって、戦後の教育は大きく前進をとげました。それは父母たちの支援のもとに、多くの教師たちの努力によってかたちとられたものです。だが、現在の時点で、わたしたちは、もういちどこの戦後教育の理想を問いたいとおし、新たな決意をもって前進をはじめる必要を感じています。

わたしたちは、つぎの事実から眼をそらすことができません。いま、空気も、水も、食物も、眼に見えない毒によって汚れ、わたしたちの生命はおびやかされています。とくに、ま育うつつある子どもたちの苦い肉体がごうむりつつある危険は測りしれないものがあります。しかし、それに劣らないほどの危険が子どもたちの精神をおびやかしているといえないでしょうか。いま、多くの学校は、すべての子どもを賢く

くすこやかに育てようという本来の使命から大きくそれて、テストによって子どもたちをふるいわけ、成績順にならべるための選別機関と化し、その当然の結果として、多くの学校様いを生み出しつつあります。これは、子どもたちを競争させ、対立させ、父母と教師たちを引き離します。そして、人間どうしを分裂させるこの傾向は日ごとに強化されてきています。

しかも、分裂はひとりひとりの子ども内部でも進行しつつあります。子どもたちは連関も統一もない、多量な知識を注入され、子どもたちの精神は無類に分裂させられています。このような社会と人間とを分裂と解体とおしとめています。現在の急務でありました。本来、教育は、子どもたちが学びとった学問や文化を基盤として、自己の力によって、みずからの世界観や人権観を形成することを可能にするものでなければなりません。それによって、人間と人間の連帯を回復し、人間の全一性をとりもたすために、まず、わたしたちは、その第一歩を踏み出したいと願っています。——一九七三年一月

みんなの教育雑誌「ひと」

「ひと」は、昭和48年1月16日、創刊された。これは、戦後教育の理想を問う雑誌である。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。

戦後の教育を問直す

母と教師が対等に発言

戦後の教育を問直す。母と教師が対等に発言。これは、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。

戦後の教育を問直す。母と教師が対等に発言。これは、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。

戦後の教育を問直す。母と教師が対等に発言。これは、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。その目的は、戦後教育の理想を問うことにある。



「ひと」創刊のいきさつ

『ひと』の案内

●—『ひと』は、読者が参加してつくる雑誌です。一人で悩むよりも、仲間になれば目のまえがパッとひらけます。

この混沌とした時代に、自分の生き方を、自分の授業を、自分の子育てを発見しようとしている人びとのために……。先生がたは教育のたのしさを発見し、父母はいまの教育への悩みを解決し、子どもたちは自信をとりもどすために、点数

で人間を序列つける教育の流れを変え、学びあい、教えあうほんとうの教育のあり方を追求しつづけます。そこから、新しいひととひととの結びつきがはじまるにちがひありません。

◎ [ひと] 六つの特徴

①—いまの教育の流れを大きく変えるには、しろうとの新鮮な意見と行動とが必要です。母親が編集に積極的に参加しています。

②—いまの教育の直接の被害者である青年や母親の意見や告発をとりあげ、その問題解決のための具体的な手段を求めて、すぐれた実践を紹介します。

③—子どもには自分の頭で考える喜びを感じ、自信をふかめ、教師には教える楽しさを追求できる授業記録をのせます。

④—バラバラの知識を多量につめこむことをやめ、各教科の急所を子ども

中心に総合的に扱います。

⑤—教育問題はクレイゴトです。それがちですが、親も教師も学生もホンネをぶつけあって、真実を求めます。

⑥—世間のものさしに合わせて生きることをやめ、かけがえのない、この自分の生き方を求めて、ひとりひとりが自分のものさしを発見するために……。

◎ [ひとに寄せられた反響]

▶いつも興味深く読んでいるのは、「新しい授業への招待」です。できない子が増加しているいまの授業を考えると、こんな授業ができれば、どんなにか勉強が楽しみになるだろう、と思わずにはいられませんでした。

——上条静枝・母親

▶私の実家は4人が教員です。父も教員ですが、子どもの見方・扱い方のちがいで、私たち姉弟とよく論争になります。たいてい数で圧倒し、権威を失った父は不機嫌になり、寝てしまいます。けっして私たちの意見はとりあげませんが、変化は徐々にあらわれているのです。ある日、父が[ひと]をひそかに読んでいたのです。

——石川規子・教師

▶偶然に見つけた[ひと]。大学の講義に比べ、[ひと]は、私のなかの疑問や不安に、解決の糸口を示してくれるような気がします。

——酒井美智子・大学生

『ひと』および小社の単行本ご購入のご案内

▶お近くの書店にご注文ください

『ひと』と小社の単行本は、全国どこの書店からでもとりよせてくれます。店頭で「太郎次郎社の〇〇。」とご注文ください。また、そのさい、『ひと』の定期購読を申しこめば、毎月、書店に『ひと』が届きますので、確実

に手に入ります。

▶小社からも、直接、お送りできます

振替(振替口座=東京5-138745)か現金書留でご注文ください。送金がありしだい、お送りします。単行本は送料(=実費)を申しあげます。

▶『ひと』の直接購読は送料サービスです

『ひと』を毎月、送料サービスで直接、お手元までお届けします。ご購入希望の期間(〇号~〇号)をご記入の上、お申し込みください。

6か月=2700円 12か月=5400円

